

新型コロナ対策、津波伝承館、 女川原発の安全性と避難訓練について



三浦かずとし 県議の一般質問

日本共産党



3月3日冒頭、ロシアのウクライナへの国際法を無視した侵略に厳しく抗議。プーチン大統領の核兵器威嚇を許さず、唯一の被爆国として、憲法9条を持つ日本が積極的役割を果たすことを求め、大綱5点について一般質問を行いました。

一、コロナ対策に危機感をもって

三浦県議は、宮城でも連日数百人規模で感染が高止まりし、自宅療養や入院調整中が六〇〇〇人余になっている。知事は、まん延防止等重点措置を出さず、ワクチンと検査の徹

底、感染対策などもっと危機感をもって対応すべきと指摘。また、こういう局面で4病院統合や保健所の支所化など絶対やるべきでないとい厳しく批判。（あいまいな答弁に終始）

二、津波伝承館の改善は、東北整備局と協議を

三浦県議は、陸前高田市の伝承館を視察したことを参考に、南浜にある震災津波伝承館の実態と改善を求めました。

- ① 展示室やシアターの天井が空いたままになっており、音声が外に漏れる
- ② 来館者のための休憩施設を

③ アンケートでも一番多いのが駐車場が遠く不便なこと
これらを改善するため、関係機関と協議すべきと建設的提案。村井知事も危機管理部長も、東北整備局と協議したいと前向き答弁。

三、女川原発の安全性と避難訓練について

安全性への二つの疑問

昨年3月11日福島原発3号機の「最新技術で新事実判明・原発爆発「黒い煙」の正体は？」という衝撃的な報道番組を紹介し、三浦県議は次の二点の新しい知見への見解を求めました。

- ① 可燃性ガスが発生し、水素ガス爆発で巨大ガレキの塊が270メートル上空まで巻き上がったメカニズムの解明

② 水素爆発が最上階の5階で起きていたと思われていたが、実は4階で最初に起きていたのではないかと
これらの事実解明について規制庁から報告を受け、女川原発に新知見を生かすべきではないかと三浦県議が提案。
危機管理部長は「動向を注視していく」とだけ答弁

多数の住民参加なしには

実効性ある避難計画は検証できない！

三浦県議は、2月12日の原発避難訓練で渡波中学校から同行して現場をみて、感じた3点を質問。

- ① コロナ禍で住民参加もなく、わずかな車両での訓練では道路の渋滞など検証できなかつたのではないかと
- ② 涌谷の「検査ポイント」や大崎での「避難所」受付ステーションでは相応時間が

③ 20万人が原発災害時に冷静かつ段階的に31市町村に本当に避難できるのか
石巻危機対策課は「前提条件を変えて何度でも訓練する必要性を強調」したが、住民多数の参加での避難訓練はいつ頃実施するのか。これに対し知事は「時期はハッキリしないが、来年も実施する」と答弁。

「水道民営化の問題点」

三浦県議は、水道民営化について、受水する市町村から131の質問が寄せられ、運営会社の社長も「情報を積極的に発信したい」と言っていると指摘し、「必要な情報を公開すべきだ」と迫りました。

◎水道民営化と地元の課題はホームページでご覧ください

日本共産党
県議団ニュース

速報版

2022年3月 第53号

発行：日本共産党宮城県議会議員団
（控室）TEL 022(211)3523
FAX 022(268)6093
E-mail: info@jcpmk.jp